

## 顎骨壊死を防ぐために

### これから

ビスホスホネート製剤・抗ランクル抗体薬による治療を始める方は

薬の使用前に抜歯などの外科処置や歯周病の治療を済ませておくことが大切です。

### 既に

ビスホスホネート製剤・抗ランクル抗体薬による治療を行っている方は

むし歯や歯周病にならないよう定期的な歯科受診による口腔管理が重要です。義歯の管理も行い、顎骨壊死のリスクを低減させることが大切です。

## 忘れずに!!

歯科受診の際には、歯科医師に骨粗しょう症の薬を服用・使用していることをお伝えください。処方時に受け取るカードやお薬手帳を活用しましょう。

### 骨粗しょう症治療薬

●●錠を服用の患者さんへ  
ご注意ください

#### 服用開始前

●医師と相談の上、必要に応じて抜歯などの歯科治療は服用を始める前に済ませてください。

#### 服用中

- ブラッシングなどで口腔内を清潔に保ってください。
- 歯科検診に行くなど口腔内を定期的にチェックしてください。
- 抜歯などの治療はできるだけ受けないようにしてください。
- あごの痛み、歯のゆるみ、歯ぐきの腫れなどの症状がある場合は医師、歯科医師、薬剤師にご相談ください。

○●錠は骨粗しょう症の骨を丈夫にし、骨折を防ぐための薬です。ご自分の判断で、服用を中止しないようにしてください。

歯科・口腔外科を受診される場合はこのカードを先生にご提示ください。

歯科・口腔外科の先生方へ

患者さんはビスホスホネート製剤○○を服用中、または服用されたことがあります。ビスホスホネート製剤治療患者において顎骨壊死・顎骨疼痛発症があることが多いため、抜歯等の侵襲的歯科処置はできるだけ避けてください。

骨粗しょう症の治療のため○○錠を服用しています。

飲み始めた日 年 月 日

中断・終了した日 年 月 日

病医院・薬局名

お薬の服用を中断・終了された後もお持ちください。

○製薬株式会社

## ●お問い合わせ先

ビスホスホネート製剤や抗ランクル抗体薬は骨粗しょう症の治療や予防に有用な薬です。主治医の指示通りに継続して服用・使用することが大切です。

顎骨壊死に対する積極的な治療法はないため予防に努め、万一発症した場合は主治医の判断のもと一時的に使用を中止し、かかりつけ歯科医と連携を取りながら重症化を防ぐ治療を行います。

不明な点は、主治医あるいはかかりつけ歯科医にご相談ください。

顎骨壊死を防ぐために  
かかりつけ歯科医を  
持ちましょう!



# 骨粗しょう症の患者さんへ

顎骨壊死を引き起こさないために

医科と歯科が連携して患者さんを守っていきます。



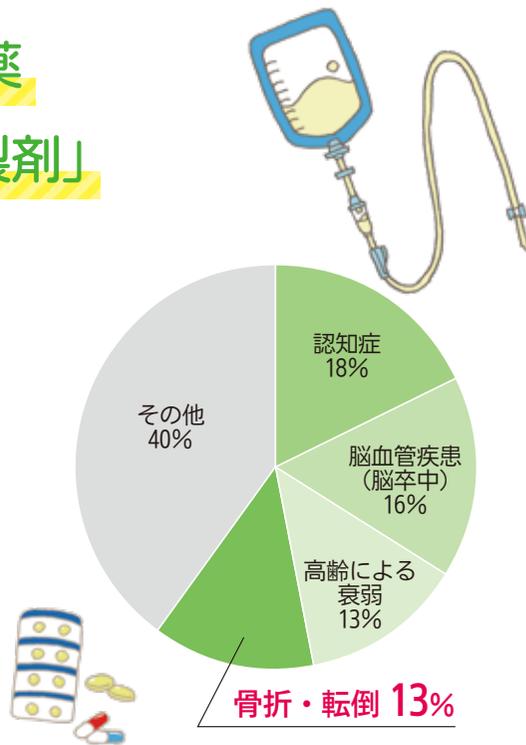
三重県・三重県医師会  
三重県薬剤師会・三重県歯科医師会

要介護に  
ならないために

## 骨粗しょう症の治療薬 「ビスホスホネート製剤」

厚生労働省の2019年国民生活基礎調査によると  
「介護が必要になった原因」の4位が  
**骨折・転倒**でした。

骨粗しょう症の治療でもっともよく使われる薬に、  
ビスホスホネート製剤があります。  
この薬を使用すると椎体や大腿骨の骨折が減ることが  
分かっています。これらは寝たきりや要介護に直接  
つながる骨折のため、骨折予防として多くの方に  
用いられています。



## 顎骨壊死 とは

あごの骨の組織や細胞が局所的に死滅し、  
骨が腐った状態になる病気です。

あごの骨は薄い粘膜（歯肉）で覆われているだけなので、  
粘膜の損傷、歯周病、抜歯などで骨が容易に露出します。  
口の中には感染源となる細菌がたくさん存在しています。  
露出した骨に細菌感染が起こると顎骨壊死が引き起こさ  
れます。

## 顎骨壊死 の原因

## 顎骨壊死と 骨粗しょう症治療薬との関連

骨粗しょう症治療に使われるビスホスホネート製剤や抗ラ  
ンクル抗体薬などの「骨が壊されるのを抑える薬」は、骨  
折のリスクを低減するほか、がんの骨転移抑制、関節リウ  
マチでは関節の骨破壊の進行抑制などの効果が期待できる  
ことから、広く用いられています。  
その一方で、顎骨壊死に関係することがわかっています。

**ビスホスホネート製剤や抗ランクル抗体薬の使用中に  
下記の要因が一つでも加わると  
顎骨壊死を発症する可能性があります。**



顎骨壊死は一度発症すると  
非常に治りにくい病気です。  
なにより予防が大切です！

